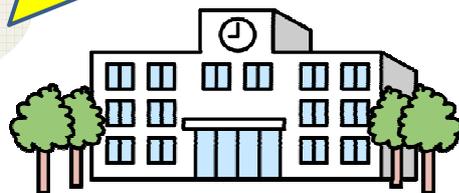


PTAだより

令和4年8月発行

本年度第3号
(通算第6号)



研修会に参加しました

7月9日(土)に開催された「南丹市PTA子育て研修会」に参加しました。

「デジタル・シティズンシップ(※)に学ぶコンピュータ1人1台時代のメディアとの上手な付き合い方」と題して、今度珠美(いまだたまみ)さんに講演いただきました。

2018年にWHOが国際疾病分類に「ゲーム障害」を追加し、ネット依存はゲーム障害であると定義されたのをきっかけに、SNSをはじめとするメディアとの上手な付き合い方を考える必要が生じています。ネットトラブルは、そこにメディア(スマホやパソコン)があるから起こるのだと捉えるのではなく、トラブルが起こる背景や要因をしっかりと考え、対応を考えることで防ぐことができるものです。メディアには子どもの可能性を拓げ、情報社会という公共のマナーを学ぶ機会も与えてくれるという面もあります。良い使い方を学ぶこと、デジタル・シティズンシップを学んでメディアと上手につきあう方法を学びました。以下、参加者の感想です。

※デジタル・シティズンシップとは、情報技術の利用における適切で責任ある行動規範のこと

研修会を終えて、子ども達がメディアと上手に付き合うには、いくつかのポイントがありましたが、その中で制限をかけるばかりではなく、困った時の対処方法(立ち止まる、考える、相談する)を、教えていくことの大切さを知りました。

子供たちのSNSやネット利用に関心をもつこと。今では切っても切れないネット、SNSとどのように付き合うかが大切。子供がどんなことに利用しているのか、どの様に感じているのかを傾聴し、共感し、受容することも大切だと改めて思いました。頭ごなしに否定しないようにしたい。「子供は言うようには育たない。見たように育つ」。親も気づくとスマホを触っているな、と。自分の付き合い方も見直す機会になりました。

講師からの「親の習慣が子どもの習慣」というお話は耳が痛い言葉でした。まずは「自分から」。これが一番難しいかもしれませんが。メディア利用についての時間と空間とでルールを策定するという観点には新たな発見がありました。時間のルールは守りにくいものですが、利用する空間(場所)をルール化することから自己管理できる力を育成していくこと。これもまずは「自分から」だなどと考えさせられました。「ネットトラブルが起こる環境や背景を考える」ことは確かに重要で、学校が進めるGIGAスクール構想への福祉的・教育的サポートとして、家庭や学校におけるデジタル・シティズンシップの理解が必須だと感じました。

【参考】令和3年度 経済産業省「未来の教室」STEAMライブラリー「デジタル・シティズンシップを学ぼう～学びの社会化と創造活動」へのURL

<http://www.steam-library.go.jp/content/132>



下記URLから講師の今度さんへのインタビュー記事(朝日新聞EduA)を読むことができます。ぜひご一読を!

<http://www.asahi.com/eduA/article/14448831>

